

2014年岡山ユーザーズミーティング
(2014年8月11日:国立天文台大セミナー室)

岡山プログラム小委員会報告

竹田洋一(国立天文台)

- 2014年前期応募状況と採択結果
- レフェリー匿名審査制の廃止
- 2014年後期応募状況と採択結果
- 次期2015年前期共同利用公募について
- 課題選考・望遠鏡時間運用について(個人的感想)

プログラム小委員会メンバー

(2013～) 竹田洋一(恒星化学組成、活動) [委員長]
(2013～) 浮田信治(変光星、連星、共生星) [幹事]
(2011～) 伊藤信成(系外銀河)
(2013～) 植村誠(変光星、連星、激変星)
(2011～) 関口朋彦(太陽系)
(2011～) 深川美里(系外惑星、星形成)
(2013～) 松尾太郎(系外惑星)
の7名の委員

観測所からのex officio:

泉浦秀行(所長)、神戸栄治(HIDES担当)、柳澤顕史
(ISLE担当)、筒井寛典(KOOLS担当)

2014年前期プログラム小委員会

2013年11月14日11～17時 岡山駅前第一セントラルビル

出席者：

(委員)竹田、植村、浮田、関口、松尾

(ex officio)泉浦、柳澤、神戸、筒井

伊藤、深川の両委員は都合で欠席

議事の内容

- 観測所報告(観測所の現状、夜数確認)
- プロジェクト課題審査
- 一般課題審査
- レフェリー匿名制について

2014年前期応募状況と採択結果

申請件数と要求夜数

プロジェクト1件(6期継続2期目)	要求夜数	25夜(今期)
一般 16件 (新規9、継続7)	総要求夜数	130.5夜
学位支援1件(新規:4期継続)	要求夜数	10夜(今期)

総計 165.5夜

共同利用に使える夜数は122.5夜(80%)
所内時間は31.5夜(20%)

夜数のoversubscription rateは
 $165.5 / 122.5 = 1.35$ 倍

採択結果

プロジェクト1件(継続)採択	25夜
一般 12件採択	総夜数 87.5夜(各3-15夜:1課題平均7.3夜)
学位支援1件(新規)採択	10夜

採択課題14件内訳(系外惑星7件、系外銀河4件、星2件、その他1件)
不採択課題4件内訳 (星[3夜希望]、星形成[6夜希望]、星[8夜希望]、系外銀河[2夜希望])

2014年後期プログラム小委員会

2014年5月14日10:30～15:20 岡山駅前コンベンションセンター

出席者:

(委員)竹田、植村、関口、松尾、深川

(ex officio)泉浦、柳澤、神戸、筒井

浮田、伊藤の両委員は都合で欠席

議事の内容

- 観測所報告(観測所の現状、夜数確認)
- プロジェクト課題審査
- 一般課題審査

2014年後期応募状況と採択結果

申請件数と要求夜数

プロジェクト1件(6期継続3期目)	要求夜数	25夜(今期)
一般 12件 (新規4、継続8)	総要求夜数	105夜
学位支援1件(4期継続2期目)	要求夜数	10夜(今期)

総計 140夜

共同利用に使える夜数は110.5夜(80%)
所内時間は28.5夜(20%)

夜数のoversubscription rateは
 $140 / 110.5 = 1.27$ 倍

採択結果

プロジェクト1件(継続)採択	25夜
一般 12件採択	総夜数 75.5夜(各3-17夜:1課題平均6.3夜)
学位支援1件(継続)採択	10夜

採択課題14件内訳(系外惑星4件、系外銀河3件、星5件、太陽系1件、その他1件) 不採択課題は今回は無し(全課題採択)

プロポーザル匿名審査制の廃止

8月のUMで「7年続けてきたプロポーザル匿名審査制は問題があるのでやめて元に戻してはどうか」と提議されて意見交換があり「もっと広く意見を募ってからプログラム小委員会で議論して決める」ことに。

oao-user MLでアンケートが実施され、母集団の約三割の23名から回答あり。

[現行のPI匿名レフェリー審査制を廃止し元に戻す案に]

8名---賛成する(廃止すべき)

8名---どちらかといえば賛成(廃止してもよい)

4名---何ともいえない(どちらでもよい)

2名---どちらかといえば反対(今のままだもよい)

1名---反対する(今の匿名制を堅持すべき)

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせると過半数の約七割が廃止に前向き

この結果を基に11月14日のプログラム小委員会で討議し、「2014B期公募からこの匿名審査制は廃止して元のやり方に戻す」ことに決定

(プロポーザルには申請者が特定できる情報を自由に書いてよく、レフェリーにはそれがそのまま渡される)。

2015年前期(1月-6月)188cm鏡 共同利用観測公募

とりあえず従来通りの公募を行う予定

ただ188cm鏡の近い将来の運用が不透明なので、プロジェクト観測課題や学位支援観測課題など**複数期にわたるプログラムへの新規の応募はあまり好ましくない**

2014年9月 共同利用観測課題公募の公示

2014年10月 応募×切、レフェリーへの送付

2014年11月 プログラム小委員会、スケジューリング

2014年12月 2015年前期スケジュール公開

これを済ませたら現プログラム小委員会メンバーは
本年末で2年の任期満了に伴い解散

現在の188cm望遠鏡観測課題の 選考・運用に関する個人的感想

現行のスクリーニングを
続ける意味はあるか？

- 申請課題数の減少と低競争率
 - ・ 少数の非均質サンプル → レフェリングの困難
 - ・ テーマの画一化とサイエンス多様性の減少
 - ・ 国際協力課題の少なさ
- 条件の複雑な時間軸 (time-critical, ToO) 課題の増加
 - ・ スケジューリングの困難増大
 - ・ 有効な時間利用が出来ていない？
- これまで行ってきたクラシカルな運用 [指定席の運用: (各課題に決まった日時に観測時間を割り当て、課題チームメンバーが来所して観測する)] だけでは限界に来ているような気がする
- サービス的・キュー的要素も交えた動的・柔軟な運用も検討し、ユーザーも主体的かつ積極的に協力してはどうか

一つの試案：各課題への時間割り当て・運用はユーザーグループの自治に委ねる（ex. 天文学会企画セッション）

● 各グループ内部での前処理

- 観測提案はグループ代表に提出し、内部でのピアレビューでプライオリティを付ける
- 原則として落とすことはしないが、必要に応じてフィードバックや内容の指導を受ける
- 一晩にかなりの空き時間が見込まれる時間指定課題はその空きを埋めるような良い課題を皆で知恵を出して考え無駄が出ないようにする

● 機器代表同士が集まっての協議会：最終的に仕切る議長は観測所長

- 各グループ代表は（内部で揃った観測課題のリストを持って）集まって協議
- 「各機器に何夜ずつ割り当てるかという比率」、また「具体的にどの期間にどの機器を付けるか」のスケジュールを決める
- 観測時間は個々の課題ではなくその機器のユーザーグループに与えられ、時間を具体的にどのように活用するかはグループ内部で話し合っ

● 機器ユーザーグループによる望遠鏡時間の運用

- 基本的に自分たちの話し合いで決めて予定した観測を行うが、天候等の状況に応じてキューに入れておいた課題を動的にはめ込んでいく
- 観測はユーザーグループから出した観測当番の手によるサービス観測で行う
- もちろん課題のメンバーが見守るのは自由（リモートで、或いは自腹での参加で）

（長所）

- 有効な時間利用ができる
- 特殊な観測時間割り当て要求課題も可能に
- 短時間プログラム機会が増えサイエンスの多様化に
- サービスモードで国際プログラムが増加し活性化
- 観測旅費の節約が出来る

- 観測所の負担が軽減される
- ユーザーの絆が深まり教育的にもよい

（重要なポイント）

- 各人にユーザー全体としてのメリットを考
えて場合によっては譲る柔軟性が必要